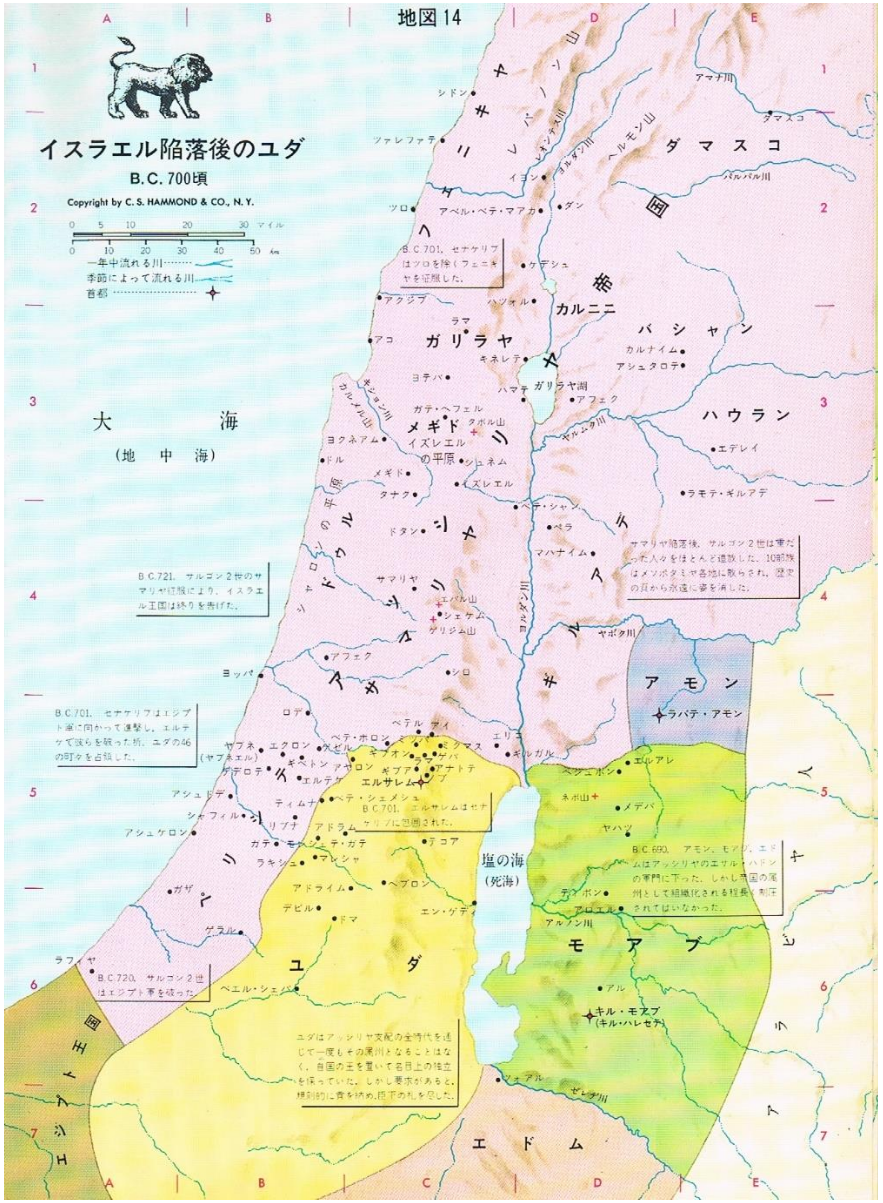


2022 年 12 月 4 日　説教「最も小さいものだが」

ミカ書 5 章 2〜6 節

アドベントには、列王記の学びをお休みして、キリストのご降誕に関係する聖書箇所を開いていくことといたします。今朝は、ミカ書を学んでいきます。

預言者ミカは 1:1 にもあるように、ユダのヨタム王、アハズ王、ヒゼキヤ王の時代に活躍。紀元前 730 年後半から 690 年代が働きの期間で、預言者イザヤと同じ時代です。この書は神の審判の宣告と、神の祝福や希望が、交互に記されています。4〜5 章は 3 章にある指導者の罪の記述を受けて、神の栄光の王国について記された部分です。そして、今朝学ぶ 5 章にはメシヤ（救い主）の来臨が預言されています。

1. **永遠の昔から（2 節）**

①ベツレヘム（2）**「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、」**このベツレヘムこそ、イエス・キリストが誕生した地です。エルサレムから南へ八キロほどの所に位置します。この地がここでは、ユダの氏族の中で最も小さい、と言われています。しかし、この地はダビデ王の生誕の地であり、ダビデの町とも言われました。ルツ記のルツも義母ナオミの故郷であるベツレヘムにもどったと記されています。この地は、温暖で土地や肥沃で果樹園などに恵まれていました。とはいえ、ヨシュアの時代に 12 部族に分割されたうちのユダのなかでは、ミカの時代には人口の面でも最も小さいと記されています。この部分がマタイの福音書に引用されていますが、そこには「ユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない」と言い換えられています（マタイ 2 章 6 節）。つまり、福音書の方では、この世的に言った勢力の面では、小さくなっているけれど、歴史的に考えても、決して小さな存在ではないということを強調しているのです。

②イスラエルの支配者（2）**「あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。」**たといユダ氏族の中で、小さい存在であっても、決してその存在は疎んじられるようなものではないというのです。というのも、この小さな存在である地から、主なる神のために、イスラエルの支配者になる者が生まれるというのです。元々ダビデ王の町であったわけですが、「イスラエルの支配者」とあるのは、単に政治的な支配者というよりも、メシヤ（救い主）なる方が暗示されています。神の民にとっての最も重要な存在で、そのメシヤについては同時代のイザヤにも預言が与えられていました。

③昔から（2）**「その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」**メシヤが出現することについては、永遠の昔から定められていた、

というのです。罪に堕ちた人間の救いは、メシヤ（救い主）によるしかないからです。メシヤだけが人を罪から救い出すことができるという神学は、天地万物が創造され時から覚えられていたことなのです。そして、ミカの預言から７００年も後に、メシヤはお生まれくださったのです。

２．**安らかに住まう（3～4 節）**

①キリストの立ち返る（3）**「それゆえ、産婦が子を産む時まで、彼らはそのままにしておかれる。彼の兄弟のほかの者はイスラエルの子らのもとに帰るようになる。」**産婦とはイエスの母マリヤのことを預言しているのでしょう。救い主が生まれるまで、敵の圧迫は続くということが預言されていますが、これが具体的に何を預言しているのかははっきりしません。「彼の兄弟のほかの者」とういのは異邦人でクリスチャンになる人達のことで、彼らがキリストに立ち返ることになることが預言されています。

②御名の栄光（4）**「彼は立って、主の力と、彼の神、主の御名の威光によって群れを飼い、彼らは安らかに住まう。」**メシヤは時至って、救い主の役割を果たすために、世に立たされて、主の力を示すというのです。また、主なる神の御名のご威光によって、救い主である彼のところに引き寄せられて来る人々を養ってくださるのです。そして、救い主にあって生きる者たちは、彼にあって平安のうちにいきるようになると預言されるのです。

③地の果てまで（4）**「今や、彼の威力が地の果てにまで及ぶからだ。」**ここまで至ると、メシヤの霊的な権威、力というものは、イスラエルだけでなく、広く地の果てにまで、広がっていくというのです。それはイエス・キリストの福音が、全世界へと広がっていくことを預言していると考えられます。

３．**救ってくださる主（5～6 節）**

①アッシリヤが（5）**「平和は次のようにして来る。アッシリヤが私たちの国に来て、私たちの宮殿を踏みにじるとき、私たちはこれに対して、七人の牧者と八人の指導者を立てる。」**さて、メシヤのもたらす平和の預言は、現実に、ミカの時代に生きる民への預言ともなっていました。つまり当時は、アッシリヤ帝国が世界を席巻していました。実際のところ、紀元前 721 年に、アッシリヤ帝国はサマリヤを陥落させました。この預言は、アッシリヤが南王国ユダにも入り込み、宮殿を踏みにじる時に、七人の牧者と八人の指導者を立てて、この国を守ってくださるというのです。

②抜き身の剣で（6）**「彼らはアッシリヤの地を剣で、ニムロデの地を抜き身の剣で飼いならす。」**ここに立てられた牧者と指導者たちは、メシヤに導かれながら、アッシリヤの地を、剣を抑止力として用いてで抑えるとともに、ニムロデの神を奉ずる地、すなわちアッシリヤを抜きだした剣を抑止力として用いて治めることになるというのです。飼いならすという表現には、ここにある牧者が、相手の心の中にも入り込んで、相手の心のうちに穏やかなる平和をもたらしていくということをも預言しているのです。

③彼は救う（6）**「アッシリヤが私たちの国に来、私たちの領土に踏み込んで来たとき、彼は、私たちをアッシリヤから救う。」**そして、究極的には、メシヤが神の民をアッシリヤの抑圧から救うことになるというのです。即ち、アッシリヤがイスラエル、ユダの領土に踏み込んで来たときにも、手を差し伸べて守り、救ってくださるというのです。

《結論》アドベント（待降節）には、イエス・キリストの来られた理由や意味を確認し、この方の御来臨を心から待ち望む時としたいものです。

新約聖書においては、マタイとルカの福音書に、キリストの誕生の由来については詳しいです。しかし、キリストの誕生のことを深く覚えるためには、これを旧約聖書まで掘り起こしていかなければなりません。キリストの誕生については、旧約聖書に預言されていたからです。メシヤについての預言の記述が最も多いのはイザヤ書です。7 章から 11 章にかけて、明らかな誕生預言が記されています。53 章にはメシヤ苦難、キリストの受難が預言されています。

今朝読んでいるミカ書にはメシヤの預言のなかでも、この書だけにしかない預言内容があります。それは、メシヤが誕生する地名がここに預言されているとういことです。ミカ書には、その地がベツレヘムだということを預言しています。マタイの福音書 2 章 1 節を見ると、「イエスがヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったときに・・」とあります。ある人は疑って、旧約か新約のどちらかがうまく調整したのではないかというかもしれません。しかし、マタイ福音書の博士たちが来た時の経緯を見ても、歴史の事情を変えることができないことがわかります。旧約の方も今日の聖書とほとんど変わらない、文書が発見されています。ということは、ミカ書の預言が成就したということが、イエス・キリストが貴い救い主であることを、証していることを、まずは確認していきたいのです。

次に私達が今朝のミカ書の記事から学びたいのは、ベツレヘムが由緒のある地であるにもかかわらず、ミカの時代の地図に名前が記されないような、力弱く小さな町であったということです。しかし、その地にメシヤがお生まれくださる事が預言されたのです。主が、あえてその地をお選びくださって、メシヤをその地に誕生させようとしてくださったことに、注目したいのです。

私達は一般的には、小さいより大きい方を好みます。小さいことは弱く、貧しいととらえる傾向があります。そして、それは一面的にはあたっているでしょう。私たちの教会は今でも規模の面では小さいのですが、スペースの面では広くなりました。より小さい時代には、行いたくても行えないことがたくさんありました。たとえばコンサートはできませんでしたし、複数のことを同時に行うこともできませんでした。駐車するスペースもありませんでした。不便でした。スペースが大きければできることが増えてくるのです。これがまた、人々の数が大きければ交わりも多角的になり豊かになるでしょう。しかし、だからといって小さいことが悪いことではありません。小さいからこそできることもあるでしょう。小型車でなければ入れない所もあります。

キリストを最も小さい町ベツレヘムにお生まれくださったのは、弱く小さい者たちの価値でありましょうか。福音の大切な側面を示してくれているのです。

最も小さいと思われた地に、キリストはお生まれくださいました。福音の光は、小さい者、弱い者達に届いていたことを福音書は教えてくれています。小さいことにがっかりする必要はありません。そこにことが起こされてくるのです。キリストの恵みが注がれてくるのです。祈っていきましょう。